

2026年3月期 第3四半期 決算説明会での主な質疑応答

日時	2026年2月9日 13:00-14:00(日本時間)
場所	オンライン
登壇者	専務執行役員(出席) 西 美純 常務執行役員(出席) 山崎 宏信

主な質疑

質問：板紙・紙加工関連事業での価格改定の進捗状況と今後の見通しを教えてください。

回答：価格改定交渉は想定していたより長引いていますが、日経市況における段ボール原紙の販売価格が2月に10円上昇したこと、今後、進展が早まると見ています。業界団体は、昨年に続き今年も段ボール需要が前年割れとなる予測を公表していますが、価格改定が直接段ボール需要の後退につながるとは予測していません。近年見られる需要減少は、インフレによる実需の不振や包装の簡素化、食品ロス削減が背景にあり、これは今後も続く可能性が考えられます。

一方で、固定費や物流費の継続的な上昇が続いているため、お客様には価格改定が必要であることを丁寧に説明し、理解を得てまいります。

質問：軟包装関連事業の第4四半期(1月～3月)の見通しと来期の考え方について教えてください。

回答：フィルム原反の販売価格に対する調整圧力はありますが、当社グループ全体としては、第3四半期まで的好調さを維持できると見ています。

フィルム原反の受注量は、前年度振るわなかつた状況から今年度は持ち直しつつありますが、通年としては完全な回復には至らない見通しです。来期は本来の受注量に戻ると予測していますが、フィルム原反の販売価格が連動性を示すナフサ価格は今後の不確定要素であり、その動向によっては、フィルム原反の販売価格への調整圧力が高まるリスクもあります。

一方で、フィルム製品の販売価格については、固定費や物流費の継続的な上昇を受けて価格改定に取り組む中、ナフサ価格との連動性は以前より弱まっている状況も見られます。

質問：海外の事業環境と重量物包装の新工場稼働の状況を教えてください。

回答：中国・アジアにおいて、段ボールの需要は依然として足踏みの状況にありますが、重量物包装には堅調さが見られます。北米においても重量物包装は順調です。軟包装事業では一部、海外子会社から国内子会社への受注商流変更の影響がありましたが、事業自体は堅調です。

欧州においては、主要な顧客基盤を築いている自動車産業の景気が悪化し、持ち直しに時間を要しています。新工場の稼働では、一部製品の内製化によるコストダウンに加え、新規需要の開拓先として自動車分野以外、化学品等への拡販にも取り組んでいることから、業績は今後底入れし、徐々に回復に向かうものと期待しています。

質問：来年度の固定費の増加はどの程度見込まれますか。また、経費の増加が計画を上回っていますが、コストアップ分の価格転嫁は検討していますか。

回答：インフレによる修理費や物流費、人件費等の継続的な上昇を総合的に鑑み、来期の固定費は今期並みに増加する可能性があります。継続的な固定費の上昇は産業を超えて共通していますので、お客様の理解も得られやすいと考えています。

質問：設備投資の遅れから、フリー・キャッシュフローの回復期が後ずれすることはないですか。

回答：一部で工期の遅れがあり、資本的支出のピークが今期から来期にずれ込む可能性はあります。ただし、フリー・キャッシュフローは来期に業績が上向くことで改善する見通しです。

質問：アクティビスト投資家への対応と資本政策について、今後の見通しを教えてください。

回答：特定の投資家への対応に限定するものではなく、様々な投資家や株主の皆様とのこれまでの対話内容や昨年発表した「Vision120」に対するご意見、市場環境の変化等を鑑み、資本政策に本格的に取り組んでいく考えです。施策の具体的な内容については決定次第、適時適切に開示する方針です。なお、「Vision120」に対する今後の進捗や見通しは、決算に合わせて等、適切なタイミングで必要に応じて説明させていただきます。

本文書に含まれる情報の全部又は一部を無断で複製、転載することはご遠慮ください。

本資料に含まれる事業戦略や業績予想等に関する内容については、現時点で知りうる情報をもとに構築されたものです。記載された業績予想数値等は、将来の計画に関して実現を保証するものではありません。